

## 第8回新市将来構想策定小委員会

# 議 事 録

# 第8回新市将来構想策定小委員会会議録

## 1 会議を開催した日時及び場所

- ・日 時 平成15年7月28日(月) 午後3時30分
- ・場 所 長岡市役所大会議室

## 2 会議出席委員の氏名

豊口 協	二澤 和夫	山本 俊一	外山 康男
佐々木保男	熊倉 幸男	米持 昭次	坂牧宇一郎
長谷川 孝	朝日 由香	村上 雅紀	北村 公
小池 進	高野 徳義	野田 幹男	

以上 15名

(欠席委員の氏名)

池田 守明 石黒 貞夫

以上 2名

## 3 議題及び議事の要旨

別紙のとおり

## 長岡地域任意合併協議会新市将来構想策定小委員会

事務局（北谷）

定刻となりましたので、ただいまより長岡地域任意合併協議会第8回の新市将来構想策定小委員会を開催いたします。

なお、本日の小委員会は、石黒委員及び池田委員がご都合により欠席となっておりますが、半数以上の委員のご出席をいただいておりますので、規程により会議が成立していることをご報告します。

次に、本日の議事に係る資料のご確認をお願いします。本日の会議資料として、会議次第、資料1-1、資料1-2及び資料2を配付させていただきました。なお、会議次第、資料1-1、資料2については事前にお送りしておりますが、資料1-2については本日ご用意させていただきました。

それでは、お手元の次第に従いまして順次進めさせていただきます。

なお、恐れ入りますが、ご発言の際はマイクを使われますようお願いいたします。

それでは、議題に入らせていただきます。この後の議事進行につきましては、豊口委員長よりお願いいたします。

委員長（豊口 協）

それでは、早速でございますけれども、議事に入らせていただきたいと思います。今日は、今事務局の方からお話がありましたように、議題は二つでございます。今まで議論をしていただいた内容の修正等、また重複する問題もあるかと思いますが、内容をさらに精査して、より正確なものにして整理をしていきたいという、そういう段階に入っておりますので、ひとつよろしくお願いをしたいと思います。

最初に、1番目の議題としまして、新市地域らしさ価値及び総合ビジョンの修正案が出ておりますので、事務局の方からご説明をお願いします。

事務局（竹見）

それでは、事務局からご説明をいたします。座って説明させていただきます。

皆様方お手元の資料ナンバー1-1をごらんください。新市地域らしさ価値（修正案）及び総合ビジョン（案）検討資料です。これは、基本的には前回の7月18日の任意協議会にご提示した資料とほぼ同じものです。

では、おめくりください。1-1ページにつきましては、将来構想策定の流れということで追加をさせていただきました。住民の意向の収集から住民の意向の統合、それから自治体ワークショップによる作業までまとめております。

それから、1-2ページをごらんください。こちらは調査の概要ということで、今までの意向調査、あるいは地域資源、あるいは計画づくりの材料となる言葉の収集についてまとめたものです。

次が1-3ページです。こちらは新市地域らしさ価値、ブランディング価値の構築イメージというものを既に提示しておりますけれども、こちらにまとめてあります。

それから、1 4ページです。こちらは地域らしさ具体化方針ということで、こちらは今までの小委員会の内容、あるいはキーワードから地域らしさ価値の具体化方針までをまとめてあります。

続いて、1 5ページです。こちらは、新市地域らしさ価値その1です。前回もいろいろご意見をこちらの小委員会の方でいただいたわけなんですけど、それに基づきまして直すところにつきましては修正という形で今回提示させていただきます。まず、独創企業が生まれ育つ都市ということで、前は独創企業生育都市ということであったんですけど、漢字だけが並んでいるというご意見と、それからなるべくわかりやすくというご意見が出ましたので、こちらにつきましては独創企業生育都市を独創企業が生まれ育つ都市という形で修正させていただいております。

続いて、1 6ページにつきましては、このまま特に修正はいたしませんでした。

続いて、1 7ページです。新市地域らしさ価値その3です。こちらにつきましては、未来人という部分で文章の部分、新市地域らしさ価値の意味を示す部分で上から4行目です。未来人のところが未来をつくる人よりも未来を生きる人の表現の方がよろしいんじゃないかなというご意見が出まして、こちらにつきましては(未来人=未来を生きる人)という形で修正しております。

続いて、1 8ページです。こちら新市地域らしさ価値その4です。最初世界をつなげる和らぎ交流都市ということでしたけども、こちらにつきましては表現を世界をつなぐという形にしております。それから、今までは人「ものがたり」競和国という形だったんですけども、少し名詞が並び過ぎていてわかりにくいということで、それぞれ人という部分、和らぎ交流というのは人であるということと、それから長岡の歴史というのは人の営み、物語によってつながってきたという部分で物語。それから、競和国というのは、新市各地が持ち味の競演を行いながら融和の地域を目指すという姿勢を明らかにするという意味も含めまして、それぞれ独立させてかぎ括弧をつけたという形で表現をさせていただいております。

続いて、1 9ページです。こちらは、前回の小委員会の中で、四つの柱について共通要素、あるいは新市地域らしさ価値を高めるための何が必要かということでいろいろご意見いただいた中で、統合要素としては、すべてのものを満たす誠実な人間パワー、あるいは人材精神の部分でヒトはタカラであるということで、人財、人の財ということで皆様方から一つの統合の要素としてご確認いただいたと思います。その人財という部分で、私どもの方で人財万歳都市という形でご提示させていただいたんですけど、少し万歳という部分がわかりづらいという部分もありました。それで、意味につきましては、人財の都市の下に書いてございますように、いわゆる人財という部分で地域の人々の可能性や才能を尊重して長久のいわゆる繁栄を獲得していこうと、そういった意味を含めていきたいと思いますということでご確認をさせていただいていると思います。

本日、資料の1 2を追加資料としてご用意をさせていただきました。こちらは、新市総合ビジョンを考える上での基本的なコンセプト、そちらを取りまとめてあります。これは、一般的にはこうだということで考えていただければよろしいかと思っております。

まず、1ページをごらんください。検討のための与件です。新市統合ビジョンに求められる事柄というのは、次のように整理されます。一番上の緑で四角に囲った部分です。こちらは、四つの新市地域らしさ価値の共通的な意味を総括し、それから新ながおかの姿勢を表現するいわゆる地域スローガンであるということが重要であると思います。それから、(1)に書いてございますように、言葉の意味・適合性です。こちらにつきましては、これまでの検討から人=ヒトを財=タカラとして発展、繁栄する都市として、人財という部分を出して〇〇都市ということです。

それから、下の四角でくくった部分なんですけど、地域の人々の可能性や才能といった人間性を尊重し、それらの人々の活動によって、長久の繁栄を獲得する都市であるという意味と適合性が重要になってきます。

それから、(2)にありますように、言葉の響き・面白さという部分で、こちらのスローガンというのは地域内、いわゆる新市の地域内の方々はもちろんですが、これから発展していくためには地域外、新ながおか市以外の方にもこちらに書いてありますように、おやっとか、何かおもしろそうなことをやっていそうだという感じで興味を持たれるという部分が非常に重要です。

それから、(3)にありますように、スローガンの簡潔性ということで、こちらのこれから長岡地域を内外に強く発信していくために、より少ない文字数で端的に表現されたスローガンである必要があるということです。これ企業でもいろいろ企業スローガンとかありますけども、端的に表現をされております。

そういった観点から、2ページ目でございますけれども、統合ビジョンの検討案という形でいろんな視点で取りまとめてみました。左の方から方向性と、それから真ん中が人財、都市という部分と、人財と都市の間に挟める言葉ですね。それから、一番右が、意味とか適合性、あるいは響きとかおもしろさ、あるいは簡潔性等があるかどうか、そういった部分でいろんな言葉を当てはめていったときに、どういふ評価が出てくるかという部分を考えながら整理していくということが必要になってくるかということで考えます。

上の方から申し上げます。前回の案は、人財と都市の間に万歳というのを挟みまして人財万歳都市という形で、意味的には時間的に長く、それから繁栄という意味を含まれておりました。ただ、少しわかりづらいという部分では、簡潔性をとるという部分で三角印をつけております。

次が意味の適合性という部分で、いわゆる繁栄という部分を繁栄とか隆盛とか興隆という繁栄という意味を少し全面的に押し出したものです。ただ、こちらの部分につきましては永続性とかという部分で表現が薄くなってまいります。

それから、上から三つ目です。これは、万世とか万代、あるいは永久、栄統、長久、それから永生という言葉があります。これは永久とか、いつまでも続くとか、長く久しいとか、そういった時間的にずっと続くという部分がありますが、ただ繁栄性という部分での表現が薄くなってまいります。

それから、万世というのは東京の地名にあったり、万代というのはちょっと新潟のイメージが強くな

ってまいります。

それから、上から四つ目ですが、地域の言葉とか、特性とかいう言葉を使いますと、信濃川の悠久の流れとか、そういった部分から悠久とか長生という形で取りまとめております。悠久というのは、はるか後まで続くとか、そういった意味も含まれています。ただ、永続性とか永遠性のみの表現であります。

それから、上から五つ目ですけども、言葉のおもしろさとか軽快感では、永永とかザクザクという言葉もあります。ただ、わかりやすい反面、ちょっと意味とか適合性という部分では欠けてきます。

それから、最後ですけども、意味の説明という部分では、例えば人財の興き起つ都市とか、あふれ出す都市とか、そういった言葉がありますが、ただちょっと響きとか外に対しての発信という意味で少し弱くなってくるということです。

統合ビジョンにつきましては、時間的な長久という部分と長く繁栄するという部分でぴったりの言葉がなかなか当てはまりづらいという部分がありますけども、この部分につきましては少し時間をかけてご検討いただければと思います。

それから、新市地域らしさ価値なんですけど、前回わかりやすいという部分でいろいろ直してみたんですけども、もう少し、私どもがいろいろご意見を伺っている中ではもうちょっとインパクトがある言葉、いわゆるわかりやすく、なおかつインパクトのある言葉が今後求められていくんじゃないかなということで、その辺も含めましてご検討をお願いしたいと思います。

以上です。

委員長（豊口 協）

はい、どうもありがとうございました。

それでは、最初に地域らしさの価値等についてご意見をいただきたいと思いますが、資料1をごらんいただきたいと思います。この前提にあります内容については何度もご検討いただいた内容ですので、1から4までは一応こういう形で整理をされたということでご了承いただけたと思いますが、よろしゅうございますか。

「異議なし」という声あり

委員長（豊口 協）

それでは、資料1 5ページ、都市地域らしさ価値の1です。ここで、一番下の枠の中に独創企業が生まれ育つ都市というふうに、育成都市からこういうわかりやすい言葉に事務局の方で検討して修正をしていただいておりますが、この点で何かご意見がありましたらいただきたいと思いますが、どうぞご自由にご発言いただきたいと思います。

事務局（竹見）

わかりやすく独創企業が生まれ育つ都市という形にしたんですけども、実は1 7ページとか1 - 8ページをごらんになっていただくとおわかりになりますけども、都市の前に安住とか交流という言葉が入っているんです。例えば世代がつながる安住都市というのは、後半の方が重い言葉で、前半がどちら

かという状態をあらわしているような形でつないでおります。

それから、1 - 8ページでも、後ろの和らぎ交流都市という部分が重くなっていて、前段の部分が少し修飾といたしますか、そういう形で入っています。

1 5ページの独創企業という部分では、前段の部分では独創企業という重い言葉が入っていて、後ろの方がほかの言葉のように何とか都市という部分がなくて、それで少しインパクトがちょっと薄れたのかなというふうに感じておりますので、その辺を含めましてご検討をお願いしたいと思います。

委員長（豊口 協）

この四つの柱この前の委員会で方向づけとしては確認されておりますが、その表現としてもう少し整理ができないかというご意見をいろいろいただきました。そういう点で整理をして今日提案をさせていただいておりますけれども、特に私はこの言葉が全部バランスとれてきれいにそろっている必要はないだろうと思うんです。やはりこの前の委員会でのご異議がありましたように、わかりやすいということが一番重要だと思いますが、そういう点で生育都市を生まれ育つ都市というふうにわかりやすく修正されておりますが、いかがですか。もし特に今ご異議がなければ次へ移らせていただきたいと思います。よろしいですか。

「異議なし」という声あり

委員長（豊口 協）

はい、ありがとうございました。

では、6ページ、これは特に修正されておりません。お米にポイントが当たっておりまして、さらにお米を中心に元気のある地域社会をつくろうと、こういうかけ声でございます。これはよろしいですね。この前も特にご意見がなかったと思いますが。

「異議なし」という声あり

委員長（豊口 協）

じゃ、1 7ページです。これは、世代がつながる安住都市という言葉になっておりまして、ここで特に修正といたしますか、内容を細かく説明したところ、がその下にあります4番目の未来人という言葉の意味づけです。未来を生きる人というふうに修正されております。これも非常にわかりやすくなったと思いますけれども、これもよろしいでしょうか。

「異議なし」という声あり

委員長（豊口 協）

では、1 8をごらんいただきたいと思います。ここで世界をつなぐ和らぎ交流都市というふうに修正されております。最初はつなげるという言葉になっておりましたけども、つなぐという端的な言い方になっております。それから、その下にあります「人」、「ものがたり」、「競和国」というそれぞれの言葉が括弧づけになっておりまして、より性格が明確に打ち出されたということになります。最初にこの四つの柱を、地域らしさの価値としての柱をご了承いただいて、最終的には統合要素、統合ビジョ

ンといいますか、そこが今日の一つ大きな課題になるだろうと思いますけれども、今までよろしゅうございますか、四つの。

「異議なし」という声あり

委員長（豊口 協）

では、地域らしさの価値につきまして、今の四つの言葉で今日は決定といいますか、方向づけをさせていただきたいと思います。

その四つの柱を中心に、統合要素として、人というのが事務局から今までのご意見を整理して提案をされておりまして、最初万歳というのが非常に好ましくないというふうなご意見をいただきまして、いろいろと言葉の上で検討をしていただいております。1 9をごらんいただきたいと思いますが、人財の次に二つ丸がついておりまして、この前のまず議論では、この人財というのは非常に方向としてはいいんじゃないかと。人という表現ですけど、それは財であると、宝であるということについては既にご了解を得ているのではないかと思います。その都市と人財の間にどういう言葉を入れたらいいかということについて、今日はこれを中心にしてご議論をいただきたいと、ご意見をいただきたいと思います。どうぞどなたからでも結構ですが、ご意見をいただければと思いますが。これは、1 2の資料にも解説された内容がありますけれども、統合ビジョンは四つの新市地域らしさの価値を表現するものであると。共通的な意味をそこで総括して、この地域、新しく生まれます新ながおか市の地域スローガンということになりまして、事あるごとにこのスローガンを互いに心に刻み、口に出し、地域社会をつくっていかうと、こういうことになります。それが将来はこの地域社会の大きなイメージとして日本中ないしは世界中に広がっていくことになるだろうと、そういう非常に重要な統合ビジョンでございますので、この総合的な見地からひとつご意見をいただきたいと思いますけども。

適合性とかおもしろさ、響き等が書いてありますが、2ページをごらんいただきたいと思います。ここに事務局からの提案が書いてありますけど、これをたたき台にしてひとつご意見をいただきたいと思います。やはり万歳がいいと、こういう方はいらっしゃいませんか。この右側についている丸、三角というのは、これは事務局での、皆さん方のご意見でこういう判断をしたということですね。全部丸つけちゃうとちょっとまずいもんですから、三角もついております。どうぞご自由にご発言ください。もう絶対私はこの言葉じゃなきゃ嫌だとか、これはどうしても嫌だとか、何かありませんか。既にこの言葉を使っているところもありますよね、場所も。そういうものとの関係もあると思いますけども。上から4番目の悠久、長生というのがありますが、悠久山と長生橋という二つの代表的なものがここに出てくるんですけども、こういうのはどうですか。これ全部丸がついております。

委員（小池 進）

いいでしょうか。

委員長（豊口 協）

はい。



委員（小池 進）

勉強不足なんでしょうけども、万歳という言葉、そういう読み方は余り一般的でないんじゃないかというふうに思っているわけです。多分これ諸橋轍次先生の大漢和辞典には出ているだろうと思うんですが、けさ一般的に普及しています旺文社の中漢和辞典見たんですけども、こういう読み方ないんです。だから、もう少し一般的な、どうしても2文字でなきゃならんのかなと。むしろ意味するものそのもの4文字使ったら、この前もご提案あったような気がするんですけども、長久、繁栄というような4文字を使えばその意味は十分酌み取れるわけでございますから、そういうことはうまくいかなのかなと。もっと簡潔に、やっぱり2文字だと主張されると、これなかなかいい言葉ないよと、こう思うわけです。したがって、余り一般的でない読み方を出すというのはどうなのか、奇異に感ずるという感じがします。以上です。

委員長（豊口 協）

はい、ありがとうございます。

ほかにどうぞ。自由にご発言いただきたいと思います。会議というのは、後で言っておけばよかったなという会議じゃ困りますので、言って失敗したなという会議の方がいいと思いますので、どうぞおっしゃってください。

はい。

委員（村上雅紀）

それがいいというわけじゃないんですけども、悠久山の悠久って、これもし意味合いとして何かわかる方があったらご説明をいただきたいのですが、それがいいというわけじゃないんですけども、悠久という言葉の意味合いがちょっとわかったら。

委員長（豊口 協）

私が説明するよりは、事務局の方でしていただいた方がいいと思います。悠久についてです。

事務局（高橋）

説明いたしますが、間違っているかもわかりませんが、昔から長くずっと永遠と続いているという、そういう意味です。したがって、例えば人財悠久都市とした場合に、人を宝として昔からずっとつながってきている、繁栄して現在にあるという意味合いと、それが例えば10年後、20年後、30年後にこの言葉を見たときに、その時点でもさらに人を宝としてその都市が繁栄してきているというイメージで悠久という言葉はここでは使っております。

それから、ついでも申しわけございません。先ほど必ずしも2文字かどうかというご意見がありましたが、それも委員さんの中でご議論していただければいいと思いましたので、あえて事務局では〇〇という表現になっておりますが、要するにここで説明したとおりに地域スローガンとして適切な表現がとれればいわけですので、その中でまたわかりやすくとかいろんな意味合いがあるわけですが、その部分も委員会の中でご議論していただければと思っております。

以上です。

委員長（豊口 協）

はい、ありがとうございました。よろしいですか。

委員（村上雅紀）

その意味は大体わかるんですけど、歴史上悠久山というのがあるんですけど、その辺の語源か何か意味合いがわかったらなと思ひまして。

委員長（豊口 協）

悠久山の意味。

委員（村上雅紀）

とひっかけてあるわけでしょう、この悠久というのは。

事務局（北谷）

違います。

委員（村上雅紀）

地域の言葉というふうになっているんで、いわゆるそれでこれ悠久と長生というのが出てきたわけじゃないんですか。違うんですか。

委員長（豊口 協）

そういう意味だそうです。

委員（村上雅紀）

それで、その辺の歴史的なのがあったらお聞かせ願いたいなど。

委員（二澤和夫）

これは、漢詩の中からとった言葉なんです。その詩は1分ほど時間与えていただければ私今持ってきますけれども、漢詩の中で、たしか五つの文字が4行か何かで並んだ詩の中から悠というのと久しいという字をとって、悠久山の命名のときにはそこからとったというふうに言い伝えられています。

事務局（北谷）

委員長、ちょっとよろしいですか。

委員長（豊口 協）

はい、お願いします。

事務局（北谷）

それで、2ページにもその悠久、長生の横に小さい字で書いてありますけども、ただし永続性のみの表現だと。時間的に見て長いという意味しかとれないものですから、逆に繁栄の部分がこの言葉からは出てこないんで、別にこれ事務局がこうしたいとか、そういう意味ではありませんので、参考のために申し上げておきます。

委員長（豊口 協）

今漢詩を取りに行かれましたので。どうでしょう、ほかにいろいろおもしろさで、ザクザクという何か金貨が出てくるような言葉もありますけど。日本じゃないんですけど、台北に士林というところあるんです、文士の土と林って。小さな昔からあるまちなんです。私昔行ったとき、どうして士林という名前がついたんですかと聞いたら、昔文士が林のごとく出たまちなんだそうです。それで、そこを士林、文士の土に林という名前つけたんです。教育のまちとしてずっと台湾では神社というか、ほこらがありまして、そこで祀ってあるんだと、こういう話を聞いたことがあります。どうぞ発言いただきたいと思えますけども。ございませんか。

委員（長谷川孝）

じゃ、よろしいですか。

委員長（豊口 協）

はい、どうぞ。もうご自由にひとつ。

委員（長谷川孝）

これは人財、そしてこの間に何かが入って都市になるというふうなスローガンという意味なんです。この人財って。

委員長（豊口 協）

一応この前までのご意見の中で、人を中心にしてそれを一つのスローガンにしようということは共通認識としてご了解いただいたと思うんです。それを少しかたい言葉になりますけども、単に人ということではなくて、人は宝であるということの意味づけて今人財というふうに表現されていると思えますけども、それをさらに意味づけするための言葉が何かないだろうかと、こういうことです。

事務局（北谷）

順番は別に逆でもいいんです。人財が後に来ても構いません。ただ、皆さんともちょっとご確認をお願いしますが、前回の委員会ではこの人財、人は宝だと、こういう人を大切にしているこの新長岡市がずっと長く繁栄できるような、そういう願いを込めたスローガンにしましょうということは合意いただいていると思っていますので、こういう提案の仕方をさせていただいています。

委員（長谷川孝）

それは承知しております。ただ、人財と言わないで、この間に助詞か何か入れることはできないんでしょうか。人は財とか人が財、そしてその後にブランクになっているのを入れると。人財と言わないで、人は財もしくは人が財何々の都市というふうなつながり方ではいけないんですか。どうでしょう。

委員長（豊口 協）

いや、いいか悪いかということじゃなくて、そういう提案をしていただければと思います。この言葉は非常に重要ですから、今日ここでぱっと決めて、人財だ、何とかだということじゃなくて、人ということについての確認はもう一度ちょっとしておきたい、それから人がタカラであるということも確認したいと。それを適切な言葉で表現するという方法論、これはこれからさらに時間がまだありますので、

議論をしながら決めていきたいと、こういうふうに思っておりますが。

委員（二澤和夫）

「中庸」という書物からの出处です。

委員（村上雅紀）

私ですか。

委員（二澤和夫）

ええ、どうぞ。

委員長（豊口 協）

皆さんに読んでいただければ。

委員（村上雅紀）

私が読むんですか。これはちょっと後にします。

委員長（豊口 協）

そういうふうに昔からある言葉を、非常にいい言葉なもんですから取り上げたということになります。

委員長（豊口 協）

どうでしょう。この事務局提案の内容について、いいとか悪いとかいうことだけでも結構ですけども。

委員（二澤和夫）

はい、ちょっと。

委員長（豊口 協）

はい。

委員（二澤和夫）

これ考えさせていただいたときに、ちょっと頭の中同じようなことで回転しているんですけども、人財というのは都市が例えば発展する場合の手段というか、人財で発展していくと、手段というふうな意味にとらえるのか、あるいは人財が育つ都市というふうな意味にとるのかによって違うと思うんですけど、私は前者だろうというふうな意味で、要するに人財によって栄えると、人財が栄えるための手段であると、そういう人財は既にあるんだという、新ながおかというところはそういう人財が一応あるという前提で、そういった人財が豊富にあって、そういう人たちが新ながおかというまちを育てていくんだと、それも永久にというか、とわに育てていくんだというふうな意味に私はとったんですけど、その辺前提が違うと大分違うもんですから、ちょっと議論してみてもいいのかなというふうな気がするんですけども。

事務局（北谷）

よろしいですか。

委員長（豊口 協）

はい、お願いいたします。

事務局（北谷）

前回の委員会でも申し上げましたけど、ここで言う人財というのはだからもう既にある人財ではありません。それを育てるという意味です。育てて、なおかつその結果このエリアが発展していくということでもあります。ですから人は宝と。宝である人を大事に育てると。それは、小さな子供でもそうですし、長岡市民全員を育てていくと。それがずっと継続的に育てていくということでもあります。

委員長（豊口 協）

はい、お願いいたします。

委員（外山康男）

今、理事の方から話がありましたが、私もどちらかというと新しいビジョンが、今ある宝よりこれから育てるという方が大切だと思います。そういう意味では、1,000年の悠久とかいう悠久という言葉が一番この中では適当なのかなと感じがいたします。先ほど小国の助役さんから話してもらった人は財、悠久の都市とか、人財でもいいんですが、そのような悠久という言葉が、長いこれからの歴史を考えれば、つくるということを考えれば、その方が一番ふさわしいんじゃないかと。これは個人的ですが、そう思います。

委員長（豊口 協）

はい。

委員（二澤和夫）

理事の方からそういう話がありましたが、私は、強いて言えば両方の意味があるような気がするんですけども、人を宝として育て、なおかつそういった育てた人がまたそのまちを栄えさせていくと、手段であってというふうな両方の意味があるのかなということで、それでさっき平たく言うというふうなことになりますけれども、例えば人財が育つとか、人財をととか、人財でとかというふうなことになる、やはりややこしい意味、両方意味を込めるということになると、余り言い直してしまうと意味は変わるのかなというふうな気がしております、あえて申し上げたわけですけども。

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。ほかにご意見ありませんか。

私また、余りしゃべっちゃいけないんですけども、長岡に10年前に参りまして非常に感動したことが幾つかありました。この人のことで。といいますのは、大学を開いて外国から研修生というか、この長岡へ大学を見に来た学生たちがいろんな国から来ているわけですけども、そのときに実は長岡の方は非常に積極的にホームステイをやってくださる。大変なんだろうと思いますけども、実は韓国から20人来たのですがと言うと、わかりましたと、さあっともうネットワークがあって、2日でも3日でも引き受けてくださると。中央から学生が来たってさあっと引き受けてくださる。ロシアから学生が来たというと、全部ホームステイやってくださると。これは、私の今までの人生で初めての体験なんです。東京で実は韓国から20人来た、中国から来た、ロシアから来たってまず無理です。ほとんどホームステイはで

きません。それからもう一つは、留学生が来たからアパートを貸してもらいたい、これも東京ではまず非常に難しいです。大学で留学生をせっかく呼んでも、大学に宿泊施設がないと、民間のアパート等を探すということは至難のわざであるということです。

なぜそういう状態になったかというのはこれいろいろあるだろうと思いますけども、長岡の場合も、私大学をオープンして最初実は非常に心配だったのがその点なんですけども、実は全く問題がないということです。これは、要するにそういう方々が既に人と人のつながりといいますか、国際的な一つの視点に立ちながら、そういう非常に視野の広い、大変失礼な言い方ですけど、人財としてお育ちになっていらっしゃる、自分のお子さんたちもそういう形で育てていらっしゃるという実態が実はわかりました。そういう点から考えますと、今までの長岡というのは人を育てるといいますか、すばらしい人を育ててきたということは明らかでこれはもう胸を張って言えることだろうというふうに私は感じております。

そういう点も含めて、この人、人財は確かに育ってきているし、これからも育っていくだろうと。非常にいい言葉ではないかなという気はしております、それをさらにつけ加える意味でどういう言葉がいいのか、これを、私はたまたま外から来て10年長岡に住んでおりますけども、今感じたことをちょっと申し上げたわけでありまして。特に学生が3日、4日長岡のご家庭にお世話になりまして、また東京へ長岡の駅から発っていくわけですけども、そのときにみんな見送りに来てくださりまして、涙を流して別れていると。そういう風景はちょっと都会ではというか、日本の国であるのかと思うぐらい実は感動的なシーンでありまして、そういう点から見るとすばらしい新長岡市が生まれる可能性が非常に高いというふうに感じております。

委員（米持昭次）

じゃ、一つ。

委員長（豊口 協）

はい。

委員（米持昭次）

私もどれがいいということもないんですが、今委員長さんの方からいろいろお話があった中で、三島町の総合計画の一つのタイトルといいますか、これが人が人を育て、人がまちをつくと、こういうことなんです。私はそういうのがここに入ればいいなとは思っているんですけど、それを言葉で要約したらどれがいいかというのはちょっとわからないんですが、一つは長岡市が中心になっているという今のこの合併の問題からまいりますと、長岡市にまつわる言葉というか、それも兼ね合わせた中で、ここの三重丸のついているところからとっていいかなという感じはいたします。

以上でございます。

委員長（豊口 協）

どうもありがとうございました。ほかにどうぞご意見を。

はい、お願いいたします。

委員（北村 公）

私は、人財〇〇都市・新ながおかというのがここへ出ているわけですけども、この〇〇をこの下に説明してあるとおりのことで解釈していけば、そこに先ほどの二つの意味があるような気がするんです。先ほど助役さんが話したことと、事務局さんの方から話したこと、この二つの意味がここの下の方へ書いてあるような気がするんです。そうすると、単純にもう長久と繁栄というのが書いてあるわけなんで、そこに悠久繁栄都市とか、そういうふうに入れれば非常にわかりやすいかなと。人財悠久繁栄都市とか、長久繁栄都市と入れれば何となくぴんとくるような私は気がします。

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。言葉も一般的にみんながわかる言葉が一番いいだろうと思うんですけども、どうでしょう。ほかにご意見ありませんか。

委員（野田幹男）

はい。

委員長（豊口 協）

はい、お願いします。

委員（野田幹男）

私はこの前の会議の折に、繁栄ということに品位があってよしいんじゃないですかと、こういうことで、一連の議案が終わってから提案した経緯がございます。しかし、今日こうやって当局の方からこれだけの数のものを出してもらおうと、みんなどれもそれなりの響きがあるわけでありますが、私は当局の説明の中で、やはり出来得ればその字句を簡潔に、しかも将来を、未来をうたうというものが含まれておるようでありますから、人も財産というのはここにありますし、今も話が出ましたように、それぞれの響きを持っておるわけでありますが、これはここで我々が例えば一つの線を出したとしても、一般のこの圏域の皆さんに説明するにはそれなりの解説をしないとなかなか意味が通りにくいんじゃないかなという感じがするんですが。

それと私いま一点、当局は随分努力されていると思うんです。これだけの提案をして、さあ皆さん、どれがいいと、こういうことですから、それはそれでよしいんですが、この人財と〇〇都市という、この〇〇について今皆さんの意見を問うておるわけでありますけれども、やはり言葉の流れといいますか、品位といいますか、言葉の語呂といいますか、そういうものがちぐはぐであってはいけないので、やはりつながりがあるような表現でないとうまくないんじゃないかなという素朴な感じがするわけがあります。今私にじゃどれがいいと言われると、一概にこれがというわけにはまいりませんが、その辺をひとつ時間をかけてやはり皆さんの合意ができるような形づくりをすべきであろうなというふうに感じます。

以上であります。

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。

今までのご意見ずっと拝見していますと、悠久とか繁栄といった言葉が幾つか皆さん方の口から出ておりまして、これに今日決めるということではないんですけども、人財ということを軸にして、それに悠久、繁栄といった意味をつけて都市と、総合的にだれが見てもよくわかるような統合ビジョンにまとまるような合意にしたいということだと思えます。まだ時間もあります。8月8日にまだこの小委員会等がありますので、それまでにまたいろいろご意見をまとめていただきまして、今日ご意見いただいた内容をさらに宿題としてお持ち帰りいただいて、じっくりと考えていただいて、また周辺の近い方たちともご意見を交わしていただいて、再度ご提案をいただくと。事務局の方も、今日のご意見をベースにしてもう少し言葉の整理を進めていくというふうにしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

「異議なし」という声あり

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。それでは、最初の資料1に基づきます議題1は、そういう方向でまとめさせていただきますと思います。

今日確認されましたのは、四つの柱、それから人、人財ということについての軸を一本通していくということになりました。ありがとうございました。

それでは、資料2につきまして議題を進めていきたいと思いますが、これ事務局の方から説明をひとつよろしくをお願いします。

事務局（竹見）

事務局からまたご説明いたします。

資料ナンバーの2をごらんください。新市地域らしさ価値（ブランディング価値）の構築に向けた重点実現項目（重点課題）です。新市地域らしさ価値の構築に向けた重点実現項目であります。こちらは新市の地域らしさ価値を高めるための市民と行政が目指す具体的な目標像であります。それから、重点課題ですけれども、こちらにつきましては行政だけではなくて、住民の方々も含めた地域全体の課題としてお考えいただきたいと思えます。前回皆様方の方でいろいろご意見が出ました。それにつきまして事務局の方で整理いたしまして、修正するところにつきましては修正をして今回ご提示をしております。ちょっと前回の内容と重複しますけども、一通りご説明をいたします。

まず、2 1ページをごらんください。こちらにつきましては、小委員会の討議結果、あるいは先行事例、それから地域ブランドの考え方から視点を整理したものです。こちらにつきましては三つの視点で、見極める、発信する、育てるという形で、これから重点実現項目を抽出していく上での視点ということで整理しております。

続いて、2 2ページです。こちらは、全国でもブランド構築が続いている自治体の事例であります。

続いて、2 3ページです。こちらにつきましては、特にご意見の中では未来のエジソンを生む人材



教育という部分で、エジソンという部分のところで少しご意見が出ました。確かにエジソンといいますが、発明家とか、それから起業家という部分でちょっと範囲的には狭まっている部分があります。ですので、今後こういった部分をもっと広い範囲に言った方が、表現した方がいいんじゃないかというご意見があれば、今日またご意見をいただければと思います。

それから、2 4 ページです。こちらにつきましては元気に満ちた米産地という部分で、見極めるところで新ながおか元気印ブランドの創造という部分で元気印がちょっと抜けてもいいんじゃないかなというご意見がありました。ただ、元気に満ちたという部分で元気というものをもっと積極的にアピールしていくという部分では元気印というのを入れた方がいいんじゃないかということで、そのままにしてあります。

それから、育てるという部分なんですけど、もっと水というものをPRした方がいいんじゃないかということでご意見をいただいております。そこで、育てるという部分で、信濃川をはじめとする豊かな水や土壌を守りということで、こちらに水という部分を表現しております。ただ、前回もちょっとご説明したんですけども、すべてが独立しているわけじゃなくて、このブランディング価値というものはつながっているということでご理解していただいて、こういった例えば元気に満ちた米産地と水という部分が例えば交流の部分にも出てくるということも考慮いただいた中で、すべてが独立しているんじゃなくて、つながっているということでご理解をいただきたいと思います。

続きまして、2 5 ページです。こちらにつきましては、発信するというところで前回重点実現項目で、寝たきり老人ゼロ、それから老人力を活かしたまちづくりの推進という形でご提示させていただいたんですけども、ちょっと老人力とか老人という言葉が少しマイナスのイメージであるということで、こちらにつきましては修正をいたしました。重点実現項目につきましては、寝たきり老人ゼロを元気に老いるという形で表現しました。それから、老人力を熟年力を活かしたまちづくりの推進ということで修正をしております。

続きまして、育てるという部分です。こちらにつきましては、主題と副題を逆転した方がいいんじゃないかというご意見をいただきまして、こちらにつきましては上と下、主題と副題を入れかえております。

あと、2 6 ページについては特にご意見がなかったんで、これはこのまま訂正はありません。

以上です。

委員長（豊口 協）

どうもありがとうございました。

それでは、ちょっと順番にご意見を伺ってまいりたいと思いますが、2 3 ページ、ここではエジソンという特定の人の名前がどうかということですが、私が習ったところの小さいころに「エジソン伝」というのを読みましたら、すばらしい人なんですけども、アメリカのエジソンの歴史を書いている本を読みますと、かなりいろいろと社会的には問題を提起した人のようです。どうでしょう。こういうところ

へ特定の人の名前を入れた方がいいかどうかということですが、日本人ですと、未来の平賀源内とか入るんでしょうか。特に問題ありませんでしょうか。よろしいですか。

「異議なし」という声あり

委員長（豊口 協）

どうもありがとうございました。

次の2、4へ移りたいと思います。ここでは、一番上にあります見極めるのところの元気印という言葉、これは事務局の方からもどうだろうかという提案がございました。これはいかがでしょうか。これは、小さい子供でもよくわかる言葉だと思んですけど。僕は元気印なんて言っていますけれども、よろしいですか。

はい。

委員（北村 公）

元気印にはどういう意味を含めているんですか。安全、安心とか、そういう意味も含めているんでしょうか。何となくイメージとしてはわかるんですけども、その辺をちょっとお聞きしたいのと、このページでいくと、ちょっと言葉がわからないのがあるんですけども、アグリカルチャー産業とか、スローフードも今使っているわけですけども、この辺もどうなのかなと。スローライフとかスローフードとか、この辺も何かちょっとただし書きでも入れてもらった方が何かのときの説明するにしてもわかりやすいかなと。スローフードというのは育てる、この左側の方ですけども、アグリカルチャー産業というのは育てる 人材ブランド育成 のところなんですけれども、そこのとこのアグリカルチャー産業というこの言葉もちょっと意味を、ついでですけども、教えていただきたいなというふうに思いますし、元気印はどういう意図でこういうふうな形になったのかちょっと聞きたいなと。

委員長（豊口 協）

これは、恐らく私の判断では、農業に関して新長岡市ないしは新潟県も含めていいと思いますけども、安心して食べられるすばらしい健康な食品としてのイメージを打ち出していきたいと。今キュウリでちょっともめておりますけども、そういうことがないようなやっぱり農業というものが中心になるだろうと。アグリカルチャー産業という言葉がありますけども、日本は工業国だと言われていますが、やはり基本的に新潟県というのは農業県だと思うんです。ですから、農業というものをベースにした産業形態を整備して近代的なやはり産業形態構造をつくっていかなきゃいけないだろうという気がしておりますので、そういう点ではアグリカルチャー産業という言葉は非常に新潟にとっては適切だろうというふうな気がしております。ということなんですけども、事務局よろしいですね。

委員（北村 公）

あと、育てるのところにスローフードと書いてあって（風土）と書いてありますが。

委員長（豊口 協）

これは、掛け言葉というような形ですね。

委員（北村 公）

掛け言葉なんでしょうけども、そういう意味で使っているわけですね。

委員長（豊口 協）

そうですね。そういうスローフードの風土をつくっていかうと、こういうことでしょうね。

委員（北村 公）

初めて説明される方は、間違わないと思いますが。

委員長（豊口 協）

ちょっとこれ話しておいた方がいいかもしれませんが、スローフードで培われる風土をつくっていかうと、こういうことです。

今提案していただいています、育てるところの水の問題はこの間指摘がありました。この地域にとって水は非常に重要な宝じゃないかというお話がありまして、それを大きく打ち出すか、それともという話があったんですけども、全体にこれさっきの人財と同じように、水というのは軸として入っておりますので、このぐらゐの提案というか、文章の中での整理でいいんじゃないだろうかというふうな形でここに提案をされております。よろしいですか。

「異議なし」という声あり

委員長（豊口 協）

それでは、次の2、5ページをごらんいただきたいと思います。ここはこの間非常に議論がたくさん出まして、寝たきり老人とは何事であるかというお話あったんですけども、大変誤解を生む言葉でもあるということで、そういう方がいないような新都市、新市をつくっていかうということだったんですけども、この言葉だけが妙に前へ出てまいりまして、皆さんからご意見をいただきました。今日はこの言葉を変えまして、元気に老いるって、これも何かあれですけども、元気に老いる、熟年力を活かしたまちづくりの推進と、こういうふうになっております。寝たきり老人と老人力が姿を消しておりますけども、いかがですか。よろしいですか。

はい。

委員（山本俊一）

この前もちょっと言わせていただいたんですけども、米ですとか、あるいは独創企業云々というのは、交流もそうですけども、一つの形のものがあって、そこに見極める、それから発信する、育てるというふうなのが出てきているんだろうと思うんです。それは意外とまとめやすいんだろうと思うんですけども、今の項目のところは世代がつながる安住都市というふうなことで、ちっちゃい子供たちからお年寄りまでというふうな形になっているものですから、まとめ方が非常に難しいと思うんです。それをやはり発信するという段階のところでは元気の年寄りを発信するんだと、外に情報として発信するんだというふうなこと。それから、育てるというふうなものについては、子供を育てるんだというふうなことで、何で子供の方を発信していないんだと。みんなおのおの非常に重要な項目でもあるわけですので、や

はり幅の広いものの項目のものについてはもう少しそれをフォローするような形のものがあったもいいんじゃないかなというふうに思うんですけども、ほかのところとはちょっと趣が違うんだらうというふうに思うんですけど、その辺あたりいかがでしょうか。

委員長（豊口 協）

これ解釈のことだと思うんですけども、事務局何か具体的なご説明いただければ。

事務局（高橋）

おっしゃるとおりの部分だと私どもも感じておりまして、それでこの緑の部分、例えば発信するのところ見ていただきますと、重点実現項目の下に、身体健康だけでなく、精神的な活力を活かす場を創り、すべての世代が元気なまち、つまりここは例えばお年寄りの知識とかそういった力を利用して、例えば子育てに活用したり、さまざまところにそういった力を活用して、すべての世代が元気なまちをつくっていくという考え方ですので、決してお年寄りのことだけを言っているということではないというのが発信するということなんです。それから、育てるところも、子どもたちの「豊かな才能」を発見し、みんなで育てるまちづくりをしていくんだと。だから、当然子供を育てるんだけど、子供を育てるのはひとりで育つわけじゃないもんで、親もそうですし、お年寄りもそうですし、みんながかかわり合いを持ちながら子供たちの豊かな才能を発見し、育っていく、そういうまちづくりをしていこうということですので、発信するも育てるもすべての世代がかかわりを持っていくという考え方でまとめたつもりでございます。

以上です。

委員長（豊口 協）

はい、お願いします。

委員（外山康男）

この前気がつかなかったんですが、育てるの中の日本一の通学(楽)環境の整備、これちょっと何でしたっけ、通学環境。そのものの単純な通学という、通うという意味だったのかなと思ったもんですから、ちょっと今わからなかったものなのでお聞きしたいと思います。

委員長（豊口 協）

この下に書いてある赤丸は、今までの意見をまとめたものの一例であり重点的にやるかやらないかは別であり、子供達が楽しく、便利な通学路を整備していこうということだと思います。

委員（外山康男）

言葉どおり。

委員長（豊口 協）

はい。

委員（外山康男）

いや、それだけちょっと私、何だったかなと今ちょっと疑問に感じたもんですから。

委員（山本俊一）

ちょっといいですか。

委員長（豊口 協）

はい。

委員（山本俊一）

今の高橋さんの説明なんですけど、何か結構切ないような説明だと私は思うんですけども、これ逆に重点施策の子育て教育云々というのを発信の方へ持っていくと、逆になると、そうした場合何か問題点があるんですか。ここに位置づけたというのはどういうことなんでしょうか。

事務局（高橋）

いえ、特に問題はございません。ですので、そういう部分について委員さんの中からご意見をいただいて、その方がよりいいということであればそうしていただいて構わないと思いますが、私どもの方は何回も申し上げておりますが、実現すべき事柄、willとかcanとかを分析しながら、どの部分を発信していくか、育てていくか、事務案をつくる段階でこういった形がいいだろうということでもとめたということですので、その点についても十分にご議論していただければと思っております。

委員長（豊口 協）

世代がつながる安住都市と、これ人の問題ですけども、現在日本が置かれているさまざま人間関係の問題点がいろいろ出ておりますけども、そういったことを新長岡市の場合には一つの理想的な形で整理をしてまちづくりをしていこうと、こういうことになっているんだと思います。特に子育て、育てるところでは、日本の教育問題まで今実は深く問題を抱えておまして、登校拒否の子供たちもたくさん出てくるし、特に都会では登校拒否というよりも、学校を無視して行動する子供たちが非常にふえてきていると。もちろん先生も無視するというふうな形で、非常にある意味では大変な時代を迎えつつあるというふうな気がします。どこへこの言葉を当てはめるかということは、今日委員の方々のご意見をとにかく重ねていただきまして、より全体がわかりやすくなるように整理をしていきたいと、こう思っておりますけれども。

はい。

委員（野田幹男）

今の25、発信するのを元気に老いるという、非常にこれ品のいい言葉になりました。私そう思うんです。それで、熟年力というのが、ちょっと私はできるだけ横文字を使わない方がいいと言ったんですが、ここは何か熟年力というよりも熟年パワーを活かしたという表現の方がいいのかなという感じがするんですけど、皆さんからご検討いただきたいと思えます。

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。非常に具体的なご提案で結構だと思います。

ほかにございませんか。これ熟年というのも新しい言葉なんです。いろんな言葉ありまして、幼年、

壮年というのがあるんです、新しい言葉では、青年、中年とか、何かいろいろ、今の時代はジェネレーションごとにいろんな層が分かれていまして、いろんな言葉が出てきましたけども、すべてのことに十分な力を兼ね備えた年齢層が熟年だそうですけども。どうでしょう。発信する、育てる、今高齢者と子供に両方が集約されてこういう言葉表現がされていますけども、基本的には両方とも共通したすべての世代がこの中に含まれているということになります。

コンサルタント（岡村）

委員長、よろしいでしょうか。

委員長（豊口 協）

はい。

コンサルタント（岡村）

事務局の方からちょっとお答えをしたいと思います。建設技術研究所のU F J 総研共同体の岡村でございます。

もともとこの見極める、発信する、育てるというのは、そういう切り口で見ていって各ページに三つの大きな柱をつくってきたわけで、今委員さんからのご指摘の発信すると育てるにつきましても中身との、発信するは2段目のところで、育てるは一番下というふうにはっきりと明確に分かれているわけではありませんので、その両方を兼ね合わせているといいますが、中身を細かく見ていきますと、発信する面と育てる面が両方かかわっているという面もとらえられると思います。でも、事務局としましては、今ご指摘の発信するの中身と育てるの中身を逆転いたしましても、多少の整理はございますけども、例えば育てるの下にあった21世紀の米百俵プログラムという、そういうものから見たらむしろ発信するという面が非常に強いと、そういうふうにも見れますし、上の方の「元気に老いる」熟年力を活かしたまちづくり、そういうまちづくりの推進という面から見れば、それを育てるという側面も兼ね合わせているということで、そういう意味では余りこの発信すると育てるは今ご提示したものが、もう答え一つだって、そういうことではございません。逆転しても十分整理ができるというふうに考えておりますので、調整をさせていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。という事務局からの意見でございますが、これはまだ今日最終的にこうだというふうに方向づけを決めることは必要ないと思います。次回に繰り越して、さらにご意見をいただいた方がいい内容だと思いますので。

はい、どうぞ。

委員（小池 進）

言葉の問題なんですけども、前からいろいろ指摘されているところですが、一般的に難しいなという感じがするんです。また繰り返すようで恐縮なんですけども、例えば生きる楽しみ云々のところの活動展開の一例の2行目、予防医療の充実というのはぴんとくるでしょうか。一般的な言葉かどうか。むしろこ

ういう表現よりも、心身の健康づくりと言った方が一般的でないかなと。これは、予防医療というのは一般化されていけばいいわけですけども、なかなかぴんとこないような気がするんです。予防注射なんていうことにならなければいいかなというような気がするわけです。

それから、前へ戻って恐縮なんですけれども、非常に横文字がちよっと多いです。先ほども栃尾の方がご指摘されたようなスローフードって、けさ出てくるとき家内に聞いたんです。おい、スローフードって一般的だかと言ったら、最近そういう言葉が言われるようになりましたよと。ああ、そうか、おれはもう70過ぎましたから、じいさんたちはよくわからんのかなと思ったんですが、どういうことなのかと聞いたら、やっぱり手づくりというか、時間をかけてゆっくりと食材を活用して食卓に出すというようなことらしいんです。ああ、なるほどな、そうしたら字読んでそのままの意味を持っているんだなというふうな気もするわけです。だけど、そういう言葉が一般の皆さんにすぐぴんとくるのかどうかって非常に危惧の念を持っているといいますか、私どものような年寄りを対象にまた考えていただくことも大事じゃないかなというふうにも思っているんですが、いかがでございましょうか。

以上です。

委員長（豊口 協）

ご意見としては、いろいろ言っていた方がいいと思います。今ご指摘のこの赤ぼちですけども、これは今までいただいた議論の中の代表的な幾つかのもここに挙げておまして、これを事務局で整理をしてこういう言葉でということではありませんので、その辺はひとつご理解いただきたいと思います。

それから、私がお答えするのはおかしいんですけど、予防医療という言葉ありますけども、実は21世紀は治療医学ではなくて予防医学の時代であると、こう言われているわけです。病気になったから治すという医学はもう古いと、病気になる前に病気にならないようにするのがこれからの医学であるというふうに言われておまして、そういう意味での幅の広い医学のことをここでは予防医療というふうに表現しているんだらうと思いますけども、そういうふうにいる新しい言葉が出てまいりまして、それを十分にそしゃくするといいますか、把握するというなかなか難しいことかもしれませんけども、将来への展望を考えますと、やっぱり新しく生まれた命を持った言葉を使っていなくちゃいけないんだらうというふうな気はちょっとしておりますが、僭越ですけども、ちょっと説明いたしました。

委員（村上雅紀）

はい。

委員長（豊口 協）

はい。

委員（村上雅紀）

ちょっと全体的な質問なんですけども、この新市将来構想書というところに、ここまで、展開例の一例までは載せるんでしょうか。それは例でとまっているんですか。ここまでは載せないんでしょうか。

事務局（竹見）

今こちらにご提示していただいているのはあくまでも一例なんです。最終的には、自治体ワークショップの方で地域別の活動方針を今つくっているんです。その後、今度自治体、旧市町村ごとの活動の展開の方をつくるんです。それが今ここにありのような活動展開一例ということで、いろいろこれからご検討いただくんです。それが最終的には構想書の方に載ってきます。ですので、今日ご提示しているのはこれあくまでも一例で、これから各市町村でいろいろご検討いただいて展開を考えていただいたり、それから全市に共通する部分は最終的には構想書の方に載ってきます。

委員長（豊口 協）

それでは、今議論をしていただいています重点実現項目ですけども、2、3ページの独創企業が生まれ育つ都市、このグリーンのところ、ベルトのところ、それから、元気に満ちた米産地のこのグリーン、3本のベルトのところ、それから今の世代がつながる安住都市の3本のベルト、この辺はこういう重点項目でとにかく整理をして、さらに具体的な内容については今事務局から話がありましたように、次回に議論をしていただくというようなことになろうかと思いますが。

次の2、6ページ、世界をつなぐ和らぎの交流都市というのがございます。これは修正がありませんが、何かご意見がありましたら。ここはよろしいですか。ここにも幾つか横文字が入ってはおりますが、これはよろしいと思いますけど。特にご意見がなければ、こういう形で一応了解、了承をしたというようにいたします。ありがとうございました。

ということで、第2番目の議題でございます重点実現項目につきましては、こういう形で今日たくさんご意見いただきました。特に今の安住都市のところでは、まだどうも議論が尽くされていないような気もいたしますけれども、この辺をさらに整理をいたしまして前へ進んでいきたいと思っております。どうもありがとうございました。

今日ご意見をいただいてまいります内容はこの二つの議題でございます。事務局としてはこの小委員会の具体的な意向を非常に正確に、さらに内容あるものにしていきたいということで、今日再度実は委員の方々のご意見をいただいております。どうしてもこうありたいとか、こういうのは困るというふうなことが後ほどまたご意見としてありましたら、どうぞ事務局の方にぜひお伝えをいただければというふうな気がいたします。どうもありがとうございました。

今日用意されました議題は以上で終わりますが、事務局ほかに何かございますか。

事務局（竹見）

その他の部分で、まず自治体ワークショップの経過をちょっと説明したいと思います。

前回もちょっとご説明したんですけど、今自治体ワークショップにつきましては既に6回終わっております。それで、地域別の今整備活動方針を検討しております。先週の水曜日から金曜日にかけて、ワークショップの一環として自治体ごとにヒアリングを実施させていただきました。このヒアリングに基づきまして、事務局で今地域別整備活動方針のたたき台を整理しております。今後各自自治体と詰めた上で次回の、8月1日にワークショップがありますけども、そちらの方で確認をするということになっ



ております。8月1日で確認された地域別活動方針につきましては、次回8月8日の小委員会でこちらの方にご提示させていただくということになります。

それから、8月8日以降の作業なんですけど、これは活動の整備方針、あるいは整備活動方針が出ましたら、今度各自治体ごとの活動展開です。今日は活動展開の一例ということでいろいろご提示させていただきましたけれども、そういった内容を今度各自治体ごとに検討したり、あるいは新市全般にかかわる部分を検討していくということになります。ですので、8月26日には活動展開という部分でご提示するようになります。

以上です。

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。

何かご質問ありましたらお願いしたいと思っておりますけれども、今日いろんな形でこの二つの議題についてご意見をいただきましたけど、まだちょっと意見、議論のし足りないところがあるような気も、思いますが、ひとつまた時間をかけてそれぞれの委員の方でじっくりお考えいただいて、具体的なご提案があればぜひともご提案いただきたいと思います。

次回は8月8日になります。時間が14時30分からになります。会場はここですね。

事務局（高橋）

はい、そうです。

委員長（豊口 協）

会場は同じここで開きたいと思っておりますが、ひとつよろしくお願いをしたいと思います。どうも今日はありがとうございました。

委員（二澤和夫）

毎回議論が出るんですが、わかりやすさというのは大変重要だと思いますし、これは貫かなければならないと思うんですが、それと外来語の問題なんですけれども、1カ月くらい前でございませうか、国語の表現について議論されて一定の基準が確か出たと思うんですけれども、その辺も一つの基準になるのかなというふうに考えておりますし、もう一つはやむなく外来語を片仮名で表記する場合にはその意味を、どっかで注釈をきちっと報告書の中で書いていただくと、あるいは欄の下に書いていただくというふうなこともこれから最後のまとめの中でぜひ配慮をしていただきたいと思います。ただ、スローフードというのは、さっきおっしゃったように、長く書けばそうなるんでしょうけれども、じゃスローフードがうまく日本語にあらわせるのかということ、なかなかこれも難しいだろうと。言いかえるとかえってわからなくなったりする部分もあるんでしょうから、これからまたいろいろ議論いただく中で練っていかねりゃならないと思っておりますけれども、なかなか一概には線引きできないわけですが、いずれにいたしましてもみんながわかりやすくということを中心に心がけながらやっていくことが基本だなというふうに思っているようなわけですが、またその辺ご議論いただければというふうに思ってお

ります。

委員長（豊口 協）

それでは、これで終わりたいと思いますが、外来語は非常に難しく、日本ぐらいいろんな言葉が入っているところないと思うんです。私もようやくアルビレックスのアルビは何であるかというのわかりまして、恥をかかなくて済んだんですけども、あれは英語でもありませんし、フランス語でもない。辞書を恐らくお手元に持っていらっしゃる方少ないだろうと思いますけども、白鳥という意味なんです。だから、ビッグスワンで白鳥がサッカーをやっていると。非常にきれいなんです、雰囲気としては。そういうことを知っていれば話になるんですけども、いきなりアルビレックスって何って聞かれると、非常に困るような言葉があっちこっちにあります。ですから、できるだけ手元の辞書で引けるような言葉に整理をしていくことが重要だろうと。辞書で引いたときに意味が載っているような言葉、これ載っていないことも随分あるもんですから、そういう言葉で、できるだけ優しくわかるようにして、小委員会としてはしていきたいと、こう思っております。よろしくお願ひしたいと思ひます。

どうもありがとうございました。

午後 4 時 50 分 終了